

## ○ 委員長報告

2月定例本会議で報告された総務企画委員長報告は、以下のとおりです。

令和3年2月定例会

### 総務企画委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、私立学校におけるICT環境整備についてであります。

このことについて一部の委員から、コロナ禍で、学校におけるICT環境整備が課題となっているが、県内私立学校での取組状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、県内私立学校のうち、中学校においては、国の補助制度の活用などにより、1人1台端末や校内無線LAN環境の整備が順次進められているが、私立高等学校における1人1台端末の整備は、国の補助対象となっていないため、一部の学校での部分導入にとどまっている。

しかし、公立学校における整備が進んでいることや、国の3次補正予算に新たな補助制度が創設されたことから、各学校は段階的に整備を進める予定であり、県としても、校内無線LAN環境整備を支援する予算案を今議会に提案している。今後も、学校からの相談や要望に応じて、国や県の補助制度の活用について助言するなど、適切に対応したい旨の答弁がありました。

第2点は、デジタル変革の推進についてであります。

このことについて一部の委員から、来年度のデジタルプラットフォーム官民共創推進事業の取組内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、現在構築中のプラットフォームは、地域を良くしたいとの熱意のある方々にエールを送るという思いを込め「エールラボえひめ」と名付けた。

エールラボでは、地域課題を持つ方々と、その解決策を持つ方々がオンライン上で対話を進めるとともに、マッチングを行い、課題解決や新たな価値の創造につながるプロジェクトを生み出したいと考えている。

ラボに参加する会員基盤の拡充や、プロジェクトの実行に向けたきめ細かな伴走支援を行うほか、市町や民間事業者など、多様な主体との協働、共創を図りながらプロジェクトを創出し、県民生活の質の向上や地域の活性化につなげ

ていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、戦略的テレワーカー移住受入強化事業についてであります。

このことについて一部の委員から、事業内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、この事業は、今年度着手したテレワーカー誘致を更に強化するもので、南予移住マネージャーの配置による南予地域での受入態勢づくり、仕事の場となるコワーキングスペースを核とした地域コミュニティの形成、首都圏企業を対象にした企業テレワーカーの誘致に取り組むこととしている。

現在、内子町に整備中の移住支援拠点は、コワーキングスペースと移住相談機能を備え、南予全域への移住者誘致のハブ的拠点として4月から稼働する予定で、来年度配置する南予移住マネージャーが、きずな博やワーケーション誘致とも連携しながら活動することにより、南予が移住先として選ばれるよう、地域での受け皿づくりを進めていきたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・使用料・手数料の見直し
- ・働き方改革の推進
- ・水道広域化推進プランの策定
- ・松山空港関連企業における新型コロナの影響
- ・SDGsの推進

などについても、論議があったことを付言いたします。

最後に、請願について申し上げます。

当委員会に付託されました請願2件については、願意を満たすことができないとして、不採択と決定いたしました。

以上で報告を終わります。